

令和元年度 活動報告

北里柴三郎博士顕彰事業「新型コロナウイルス感染症を考える」の開催

新札の顔・北里柴三郎博士顕彰事業として、「新型コロナウイルス感染症を考える」と題する講演会を三月二十九日に熊本日日新聞社で開催しました。感染拡大防止のため聴衆を入れず、講演採録をホームページに掲載の他、四月八日付熊

本日新聞紙面に掲載、併せて講演動画をYouTubeで公開しました。

講演では、熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター教授の松下修三先生と、熊本大学大学院生命科学研究所呼吸器内科学講座教授の坂上拓郎先生の二人に座長を務めていただきました。座長からは、感染症と闘い続け、克服した人類の歴史をお話いただきました。

講演一は、熊本大学大学院生命科学研究部微生物学講座教授の前田洋助先生から「見えない敵ー新型コロナウイルスにどう立ち向かうか」と題して、感染経路に十分注意して、正確な情報共有が重要なことをお話いただきました。

講演二は、桜十字病院副院長の吉永健先生から「新型コロナウイルスのパンデミックに対してどう行動する」と題して、手洗いとマスクの着用をし、せきエチケットを守ることが重要なことが話されました。

講演三は、熊本大学名誉教授の二塚信先生から「明治の感染症と北里柴三郎博士」と題して、偉大な先人の苦闘を学び、新たな脅威に立ち向かわなければならぬことをお話いただきました。

その後、事前に募集した質問に答えるコーナーが設けられました。

令和元年度「肥後医育塾」年間テーマ「感染症とアレルギー」を開催

常任理事（事業担当） 片淵 秀隆

県民に対して、定期的に医学・医療情報を提供し、県民とともに考える健康と医療を目指す目的で、一般財団法人化学及血清療法研究所並びに熊本日日新聞社との共催で、市民公開セミナーを開催しました。

私たちにとって身近な疾患といえる感染症とアレルギー、二〇一九年はインフルエンザの大流行のほか麻疹や風疹も流行し、改めて感染拡大の予防が呼びかけられています。またアレルギーは日本人の二人に一人が持っているといわれ、罹患者は増加傾向にあります。そこで、今年度は「感染症とアレルギー」をテーマに、年間三回のセミナーを開催しました。

それぞれ「食物アレルギー」、アトピー性皮膚炎、じんましん、薬疹「感染症」「花粉症とぜんそく」を取り上げ、自分の家族を守るために、感染症やアレルギーとどう戦えばいいのか、その正しい知識と最新医療を専門医の先生方から分かりやすく解説をいただきました。

第六十七回は、七月二十一日（日）に

ホテル熊本テルサにおいて、「食物アレルギー」、アトピー性皮膚炎、じんましん、薬疹」と題して開催しました。

講演では、座長を熊本大学大学院生命科学研究所皮膚疾患治療再建学講座教授の尹 浩信先生と、小児科学講座教授の中村公俊先生にお願いしました。

講演の一番目は、熊本大学大学院生命科学研究所皮膚疾患治療再建学講座診療助手 本多教俊先生から「アトピー性皮膚炎の新常識」と題して、スキンケアや適切な外用・内服治療により痒みのない状態を保つことが可能で、今回はスキンケアの方法から最新の治療ガイドライン、新規治療までわかりやすく講演をいただきました。

講演の二番目は、熊本大学大学院生命科学研究所皮膚疾患治療再建学講座助教授の青井 淳先生から「じんましん」について、知っているようで知らない」と題して、今回はそもそもじんましんとはどのような皮膚病か？そしてじんましんのガイドラインから最新の治療情報までわかりやすく講演をいただきました。

講演の三番目は、熊本大学大学院生命科学研究所皮膚疾患治療再建学講座講師の牧野貴充先生から「薬疹」と思ったときの対処法」と題して、今回は、もしか

新札の顔 北里柴三郎博士顕彰事業

講演特集

新型コロナウイルス感染症を考える

主催者・座長挨拶



西 勝英 氏
肥後医育総興会 理事長



松下 修三 氏
熊本大学 ヒトレトロウイルス学共同研究センター教授



坂上 拓郎 氏
熊本大学大学院生命科学研究所 呼吸器内科学講座教授